戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 令和７年度採択校
２年目（後半分）フォローアップ審査に関する所見

国立大学法人

宇都宮大学

（審査・評価委員の所見）

・取り組み自体は順調に進んでいる。予算の執行については疑問が残る。このプロジェクトの最大の価値は、研究ラボ活動から国際標準化のシステムづくりをするということだが、FabLab・インキュベーションの設備費が大きすぎるのか？

・成長戦略と規制標準認証の一体改革は、今後の産業クラスター政策においても極めて重要であると共に、産業界のリカレントプログラムとしても有効であり、本大学の取り組みを他大学に拡張する取り組みを進めていただきたい。国際標準化においては産業界をリードし、技術のみならず、事業面の視点で競争戦略上、極めて戦略的な企画ができる人材が必要であり、将来的には社会人大学院などを活用し、そのような専門的な人材育成まで踏み込んでいただきたい。

・執行率が低調となっているのは工事関連経費によるものであり、既に入札も終了していることから、執行状況は妥当であると判断する。外部人材の確保については、他の事業（JST 事業）に依存している状況である。JST 事業終了後も必要な人材を確保し、体制を維持できるよう、継続的な人材確保の方策を検討しておく必要があると考える。

・研究力強化と財源多様化が着実に進展している。民間連携件数・受入額ともに増加し、トップ 10%論文をはじめとする研究成果も着実に伸長している点は高く評価できる。今後の懸念は、強みである光分野において、本学が国際標準提案のどの領域（IEC、ISO、フォーラム規格等）を主導していくのか、その戦略的位置づけをさらに明確にすることである。あわせて、標準化活動を強力に推進できる『法務』や『知財戦略』に精通した専門性の高い超高度研究支援人材の持続的な確保・処遇改善に向け、外部連携の活用と学内制度の柔軟化を含む具体策の構築を期待する。

・標準化教育の内容についても、段階的・戦略的な取り組みが想定されており、計画の目標は具体的設定となっている。主要項目については順調な実績を積み上げており、R8 年度の具体的取組内容も妥当。

・取組は順調に進んでいると思われる。研究者の研究時間の確保についても引き続き尽力いただきたい。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 令和７年度採択校
２年目（後半分）フォローアップ審査に関する所見

国立大学法人

香川大学

（審査・評価委員の所見）

・希少糖研究の最終段階に近づいていることは、企業とのライセンス契約に議論が集中してきたことからもわかる。大学と産業界の連携の最も難しい問題に直面しているという意味で一つのモデルを形成していくことができるプロジェクトである。

・希少糖の事業化について、分野ごとの事業化ロードマップや企業との共同研究、ライセンス契約を戦略的に進められており評価できる。

・社会実装に向けては、本事業によるコーディネート活動をさらに活発化し、連携企業を増やすとともに、「交渉中」となっている案件を共同研究につなげ、早期の事業化が実現することを期待する。

・希少糖の４分野（食品・農業・医療・工業）における多角的な用途開発、および専門人材の配置が順調に推移しており、今後の継続的な発展を期待する。また多様な分野で推進されている研究の社会実装と、そこから得られたエコシステム構築のプロセスは極めて先進的であり、地域中核大学のロールモデルとしてその知見が他大学へ広く展開されることを強く望む。今後の自立化・資金循環に向けた課題は大企業とのライセンス契約や共同研究交渉における『ビジネス知見の限界』の克服である。大学発の知財を過小評価されることなく、対等かつ適正な対価（獲得資金）を確保するために、企業と高度なレベルで交渉・対峙できる法務・ビジネス専門人材の確保・育成に注力されたい。

・計画の進捗状況、今後の資金活用計画も妥当。一層のスピードアップを期待。大企業との連携に係わる課題（初期開拓者と権利等）については貴学だけでなく、日本全体の課題として認識。

・創薬については様々な取り組みが行われているが、どれも非臨床試験の完了にはまだ時間がかかるように見える。可能性の高いものについてはさらに支援が必要ではないか。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 令和７年度採択校
２年目（後半分）フォローアップ審査に関する所見

国立大学法人東海国立大学機構

岐阜大学

（審査・評価委員の所見）

・東海国立大学機構における活動の発展のためにも、本事業により岐阜大学の機能の高度化を目指してほしい。

・地域の産業特性を活かし、航空機領域をはじめフィジカル AI、自動化装置の社会実装に向けた企業連携、コンソーシアムを組成し、国際的な標準やルールを意識しながら海外大学との連携も図っている点が評価できる。積極的に社会実装を意識した研究開発を企業と進めると共に、国際標準、日本からのルールメイクを意識した取り組みを進めていただきたい。

・令和７年に設立されたコンソーシアム（CSAP）を活用し、企業との連携や共同研究をさらに進めることで、社会実装に向けた取組が加速することを期待する。それぞれの交付金の事業成果が重複しないよう、管理を徹底してほしい。

・航空宇宙や 3D 積層造形等の『ものづくり分野』を軸とした共創コンソーシアムの組成や、社会実装研究の司令塔となる SIRC（社会実装研究コア）の設立が極めて順調に進展している。エンダウメント（基金）経営についても具体的な目標管理のもと、東海国立大学機構のガバナンスを活かした高度なリスク運用（OCIO の導入等）を実践しており、自立的な大学改革として極めて革新的である。国全体における大学経営自律化の先進的な先行事例であり、この実証プロセスから得られる成果や克服すべき課題は、地域中核大学の新たなモデルとして他大学へ広く展開・共有されることを強く望む。

・エンダウメント型大学経営についてはチャレンジングであるが、滑り出しは順調と思料。従順性確保が今後の課題。

・体制が順調に整えられていると思われる。EPOCH による共通機器の導入などがさらにシナジー効果を生み出すことを期待したい。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 令和７年度採択校
２年目（後半分）フォローアップ審査に関する所見

国立大学法人

富山大学

（審査・評価委員の所見）

・伝統医薬研究という切り口で北陸地域の一つの大学モデルを作りつつある。おそらくこのような活動を通して、大学タスクフォースの財務・人事システムのよりシステマチックな改革の方向性を模索すべきではないか。

・Unmet Medical Needs に対応すべく、伝統医薬の可能性について大学地域を挙げて臨床研究を進めている点は評価できる。今後緊密に PMDA や AMED との対話を進め、社会実装に向けた取り組みを進めていただきたい。また、東南アジアをはじめとした海外当局のレギュレーションについての理解と海外展開についての戦略も国際担当 URA と連携し進めていただきたい。

・執行率が低調となっているのは、設備・工事関連経費によるものであり、その多くは既に納品・契約等が完了していることから、執行状況は妥当であると判断する。本事業の推進や社会実装を進める上で、臨床研究 URA の確保は重要であると考える。事業期間の半ばを過ぎようとしている中で、事業を円滑に進めるためにも、早期に人選を進め、必要な体制を整えてほしい。

・和漢医薬学等の強みを活かした『地域連携分析センター』の開設や『富山大学・県庁サテライト』の設置など、全学的な研究・産学官連携体制の整備が順調に進展し、共同研究受入額が過去最大を記録するなど着実な成果を上げている点は高く評価できる。製薬企業 OB をはじめ専門性の高い民間出身の URA を積極的に登用し、機動的な社会実装体制を構築しているが、今後の持続的な発展に向けては、優秀な外部専門人材の早期離職を防止するキャリアパス（柔軟な人事・評価制度）の整備が急務である。あわせて、個人に依存しがちな企業ネットワークや交渉知見（暗黙知）を学内人材へ組織的に共有・継承していく仕組みの構築を強く望む。

・社会実装 URA、学術研究・産学連携 URA 及びコーディネーターとの関係、具体的役割は明確に理解できた。海外大学との大学間連携の取組は期待が大きいが、一定期間後の具体的アウトプットの実現に努めて欲しい。

・富山大学ならではのプログラムであり、国際展開も順調に進んでいることを評価したい。データサイエンス、AI の導入など新たな取り組みをぜひともリーダーシップをとって進めていただきたい。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 令和７年度採択校
２年目（後半分）フォローアップ審査に関する所見

国立大学法人

福井大学

（審査・評価委員の所見）

・北陸地域の新しい地場産業としての宇宙技術の集積地を生み出すことができるのかという大きなミッションを背負っている。少なくとも福井県の宇宙産業への取り組みがそれほど大きな形で支援されているようには思えない。地域創生・若者雇用という補助金も使って自治体の関与を高めていくべきかと思われる。

・これまでの活動は着実に進んでおり評価できる。福井の宇宙産業クラスター形成を図る上で県や近畿経済産業局とも緊密に連携し、拠点形成をしつつ、他大学や他地域とも緊密に連携し、地域産業構造の転換を図る為のイニシアティブをとっていただきたい。

・ブランド力向上ディレクター及び R&D マネージャーの活動をさらに強化し、より多くの地域企業が本プロジェクトに参画することを期待する。

・宇宙技術と地元の地域基盤産業（繊維、メッキ、ロボット、AI 等）を高度にクロスさせる『ふくい宙クロスイノベーション拠点』の構築に向け、『宙テクノロジー研究センター』や『FRA オフィス』を整備し、明確なアウトカム（3U 実証衛星開発や大学発 JV 創設等）を掲げて順調に進捗している点を高く評価する。今後の持続可能な拠点形成に向けた課題は、企業共用や社会実装の稼ぎの現場を支える技術専門職員のあり方の検討である。『論文至上主義の既存の人事評価規程』の柔軟な見直しを進め、専門技術スタッフを適切に処遇・評価する仕組みを構築、短期離職を防止し、高度な衛星開発技術や実務知見を学内および地域へ組織的に共有・還流させる体制を早期に具体化していただきたい。

・着実な計画推進が認められる。今後他の研究大学や産業界の連携を拡大し、J 型衛星の産学クラスターの中心大学となって欲しい。

・意欲的なプロジェクトで順調に進んでいると思われる。国内の宇宙研究をリードするような活動にぜひとも発展して欲しい。